

天理参考館

ニュースレター

天理大学附属天理参考館

発行日：2010.9.13

発行：天理大学附属天理参考館

編集：広報普及

創立80周年記念特別展②

よみがえるヤマトの王墓

— 東大寺山古墳と謎の鉄刀 —

◇会期／9月22日(水)～11月23日(火・祝)

◇会場／3階企画展示室・他

当館は、1961(昭和36)年から1962(昭和37)年にかけて、天理市にある東大寺山古墳の発掘調査を行いました。調査では大量の鉄製武器類が出土し、そのうち1本の鉄刀には、2世紀の中国の年号「中平」の字が金で刻まれています。この鉄刀は2世紀に中国で作られ、倭国に贈られた品であったと考えられます。そのころの倭国はまさしく卑弥呼が生きた時代にあたり、この刀は中国から卑弥呼に贈られたものかもしれない、きわめて重要な遺物です。卑弥呼の時代から100年もの時を経て、なぜかこの刀は東大寺山古墳に副葬されたのです。

発掘調査に先だって、東大寺山古墳からは多数の遺物が出土していました。これらの出土品と発掘調査による出土品は合わせて文化庁が保有することとなり、東京国立博物館に運ばれました。そして1972(昭

1972(昭



腕輪形石製品

和47)年には重要文化財の指定を受け、東京国立博物館の主要な展示品として活用されてきました。しかし発掘調査報告書は刊行されないうまま、半世紀の年月が流れました。2010(平成22)年にいたって日本学術振興会の科学研究費補助金により、その発掘調査報告書『東大寺山古墳の研究』を刊行しました。当館の創立80周年を記念するこの展覧会では、東京国立博物館に所蔵される出土品の里帰りを實現し、当館が所蔵する出土品や周辺遺跡の出土品と合わせて一堂に会し、この地域が誇る文化財を多くの方々にご覧頂くとともに、東大寺山古墳に関する考古学的研究の成果を広く公開したいと考えています。



家形環頭

◇主催／天理大学附属天理参考館・東京国立博物館

◇後援／奈良県天理市・奈良県教育委員会・天理市教育委員会・読売新聞大阪本社・読売テレビ放送・奈良テレビ放送

□■□関連イベント□■□

◇講演会①

「卑弥呼と東大寺山古墳」

日時／9月25日(土)午後1時30分から

講師／金関 恕氏

(大阪府立弥生文化博物館館長)

会場／陽気ホール(天理参考館西隣)

定員／370名(当日先着順 午後0時30分

から受付開始)

※受講には当日の入館券の半券が必要

◇講演会②

「東大寺山古墳の被葬者像を探る」

日時／10月16日(土)午後1時30分から

講師／白石太一郎氏

(大阪府立近つ飛鳥博物館館長)

会場／陽気ホール(天理参考館西隣)

定員／370名(当日先着順 午後0時30分

から受付開始)

※受講には当日の入館券の半券が必要

◇列品解説

日時／9月27日(月)・10月26日(火)・

11月21日(日)午後1時30分から

会場／当館3階企画展示室

◇今回の展覧会開催に併せて、発掘調査

当時の貴重な写真を3階ロビーに展示



創立80周年記念特別展③

シヤルジャ、砂漠と海の文化交流

— アラビアの歴史遺産と文化 —

◇会期／2011(平成23)年1月5日(水)

～2月6日(日)

◇会場／3階企画展示室・他

アラブ首長国連邦(UAE)は建国40周年を迎えます。これを機会に世界に先駆けたUAE初の考古学・歴史文化遺産の展覧会を日本で開催し、アラビア半島の自然環境に即した人々の暮らしと生活、砂漠の文化と海を通じた文化交流の歴史を紹介します。

UAEの一国であるシヤルジャ首長国と金沢大学の協力により実現した展覧会です。シヤルジャ首長国はユネスコからアラビア半島の文化首都に選ばれ、博物館など文化施設が整備され、重要な遺跡の発掘調査も進んでいます。金沢大学は1987年以来「海の文化交流史」をテーマにアラビア半島の考古学調査を続けてきました。

本展では、シヤルジャ首長国の考古学資料、首長所蔵の世界的な古地図コレクション、伝統文化資料など、古代から現代に至る多彩な資料を初公開します。この機会に、アラビア・悠久のロマンに浸ってみられてはいかがでしょうか。

◇主催／アラブ首長国連邦シヤルジャ首長国・金沢大学・天理大学附属天理参考館

◇後援／奈良県天理市・奈良県教育委員会・天理市教育委員会・読売新聞大阪本社・読売テレビ放送・奈良テレビ放送

□■□関連イベント□■□

◇講演会①

「古地図の読み方」

講師／神崎順一氏(天理図書館司書)

「イスラームの社会と文化」

講師／澤井義則氏(天理大学教授)

日時／1月22日(土) 午後1時から

会場／当館研修室

◇講演会②

「第1講」アラビア半島を掘る」

「第2講」奈良出土のイスラーム陶器」

講師／佐々木達夫氏(金沢大学教授)

日時／1月29日(土)午後1時30分から

場所／当館研修室

◇アラビアの舞 — ベリーダンスの公演 —

月日／1月15日(土)

時間／11回目V 午後1時30分から
12回目V 午後3時から

出演／JIN&J☆Janyia

会場／当館1階エントランスホール

列品解説

日時／1月26日(水)午後2時30分から

会場／当館3階企画展示室



青銅製杯 青銅器時代
(前2000～1300年)

発掘調査
イスラエルにおける

「テル・レヘシユ遺跡⑤」

発掘調査(六)

この夏も引き続きテル・レヘシユ遺跡の調査を行いました。

調査は、来年度が発掘調査報告書を刊行する年に当たっていますので、第1期(1次～7次)の区切りの年となりました。これまでにおおよそわかっていたことを報告書の文章にするには、それらを確認し、皆の意見を統一しておくといけません。そのため念押し調査を行いました。従ってそんなに広い面積は必要ないのです。いつもの半分程度でした。

それでも新たな発見がありました。1つは、新たに円形遺構と呼んでいるオリブを砕いて油を絞る施設がみつかり、合計6基になったこと。それとユダヤ教成立以前の信仰の対象としての女神像が2体出土したことです。また、最上層にはローマ時代の建物があり、フレスコ画が描かれていたことなどもわかりました。今回はオリブの搾油施設について報告します。

オリブを砕く施設については、本紙No.7で少し触れましたが、直径約1.8m、深さ約0.5mに石を組み合わせ、平らな底を一方にやや傾斜させ、最も低い位置に石製のボウルを設置してあります。その中に、オリブを潰したものを集め、さらにそれを絞ってオリブ油を得るので



オリブの搾油施設

す。これまで発掘した面積はそんなに広いものではないのにテル・レヘシユ遺跡からは6基も見つかりました。6基という数は、これまで多くの遺跡がイスラエル国内で発掘調査されているにもかかわらず、最多ということですが。テル・レヘシユ遺跡は、他の西アジアの遺跡にみられるような交通の便利な場所に作られた町ではありません。むしろ、主要道からやや奥まった位置にあり、不便な町だったでしょう。その不便さを押し当てる住人が住み続けたのは、あるいはオリブを入手するのに良好な地形と植生があったと想像できます。おそらくオリブ油を他の町に送り出す一大産地であったと考えられます。そうした油は、エジプトやイスラエル各地に送り出されたのでしよう。(山内)

見所
豊田城

天理市豊田町の東700mの尾根先端部に豊田城と呼ばれる山城があります。『大和志料』という大正時代に書かれた書物によれば、「豊田殿」とも呼ばれていたようです。築城時期は15世紀中頃で、天理市豊田町を本拠とする豊田頼英が築きました。頼英は88歳で亡くなりますが、それ以後、永禄11(1568)年10月に松永久秀に攻められ落城するまで、大和の中山城の中でもひとときわ横堀(空堀)を多用した堅固な山城でした。

ところで、山城は戦いの場で、また山の中なので生活には適していません。普段の生活は、追手道を下りたところにある平坦地で行っていました。戦いが起これば山に逃げ込むということです。豊田城の麓でも生活していた様子が布留遺跡の東北隅の発掘調査で分かっており、50×45m四方の居館跡が見つかっています。このような山城と居館がセット関係でとらえられるのが、中世の城の特徴といえます。今では戦国の世を生き抜いた人々の生活の痕跡は、地中深くに埋まって見えませんが、城跡は当時の人々の技をしっかりと伝えています。名ばかりの秋、一度涼を求めて登ってみるのもいいかもしれません。(太田)



豊田山城縄張り図

資料
鬼面紋鬼瓦

外側(外区)に花の紋様を配し、内側(内区)に脚の付く鬼面紋を表わした鬼瓦です。板状になつているので昔は鬼板とも呼ばれ、棟の端に置かれていました。

紋様を見ると、額には二股の枝角とその中央に架空の花模様である宝相華の花があります。目は大きく表現され、口は耳まで裂け、上下の門歯の間から舌を覗かせています。舌を出すのは家内安全を意味し、舌を出すこととで家に入ろうとする禍を追い払っていたのです。

この紋様は、中国コーナーの展示品に見られる蹲踞の姿勢を示した魁頭と呼ばれる唐代の鎮墓獣や殷代の饕餮紋に似ています。特に殷代の饕餮紋は、顔面だけを顕著に表現したものと、顔面のほかに前肢が添えられたものがあります。鬼面紋の源流はこの殷代の文物に求めるのがいいかもしれません。その後、漢代には饕餮紋が変化して獣面紋が生まれます。これに外来的要素を加えて、南北朝時代(4〜6世紀)に鬼面紋が成立し、朝鮮半島で花ひらいた後、日本へと伝わります。この流れが、平城遷都における平城宮の鬼瓦に影響を与えているのです。(太田)



朝鮮半島・慶州出土
統一新羅時代 高さ24.2cm

資料
オルメカ石頭像

サン・ロレンソ一号
(レプリカ)



メキシコ・ペラクルス州
前13〜10世紀 高237cm

今年の4月から、1階エントランスホールに鎮座している巨大な頭だけの像は、もうご覧になりましたか。この像は、今から約3000年前にメキシコで栄えたオルメカ文明の代表的な遺物である巨石人頭像のレプリカです。

そもそも、この像が当館にやって来たのは1955(昭和30)年のこと。即座に展示室入口前に設置された同像は、当館の看板的存在として来館者の方々に親しまれるようになりました。それ以後、45年もの長期に渡り展示していましたが、当館が現在地へ移転するのを機に、公開を一旦休止することになりました。

しかし、移転後も同像の所在に関する問い合わせが絶えることはなく、公開休止からちょうど10年目の今年、創立80周年を記念して開催した「神々の物語が息づくメキシコ―古代文明の記憶―」展の目玉展示として、同像は装いを新たに再登場する運びとなりました。また、メキシコ展終了後も常設展示として、今日も来館者をお迎えしています。今後とも永くよろしくお願ひ致します。(梅谷)

発掘
調査

東西礼拝場の地下を掘る(1)
―布留遺跡三島(里中)地区―

1978(昭和53)年、天理教会本部では、1986(昭和61)年の教祖百年祭を執り行うにあたり、神殿の東西に建っている仮東、仮西礼拝場を撤去し、本普請することを決定しました。

これを受けて、布留遺跡天理教発掘調査団(現理蔵文化財天理教調査団)は、天理教会本部、天理市並びに奈良県教育委員会など関係機関と協議の末、発掘調査を実施することとなりました。

当時はまだ、埋蔵文化財に対する認識は低く、ましてや天理教会本部の境内で地面を掘り起こすことなど、不可能に近いと思われました。そこにはすでに東西の礼拝場が建っており、調査をするには、建物の撤去や移動が必要でした。何より参拝者に迷惑がかかることは絶対に避けなければなりません。調査に当たっては、天理教管轄部をはじめ多くの関係者のご協力とご支援を頂き、何とか発掘調査が実現しました。

調査は1978(昭和53)年の10月から、1981(昭和56)年3月にかけて行われました。広い面積を効率よく調査するため、試掘と本調査に分け、まず西礼拝場地区から着手し、続いて東礼拝場地区へと移りました。試掘の結果により、発掘の範囲を広げ、調査面積は最終的に東西礼拝場地区を合わせて2000m²となりました。注目すべき調査結果は、次号で報告します。(高野)

公開講演会 トーク・サンコーカン

広く一般の方々に当館をさらに身近な施設として利用していただき、諸文化の理解と教養を深めていただくことを目的とする公開講演会です。講演は、いずれも午後1時30分(受付は午後1時)から研修室にて。受講無料(入館料が必要)。

今年度は、創立80周年記念特別展開連イベントとして講演会の開催を予定しているため、トーク・サンコーカンの後期開催分は3回となります。

第204回

「物部氏の奥津城、杣之内古墳群を考える」
◇月日/11月27日(土)

◇講師/日野 宏(当館学芸員)

布留遺跡の南に位置する杣之内古墳群には、古墳時代前期から終末期古墳まで連続として首長墓が築かれています。その変遷をたどりながら、古代豪族の盛衰を考えていきたいと思います。



第205回

「南海電車の歴史と鉄道部品」

◇月日/2月26日(土)

◇講師/乾 誠二(当館学芸員)



現存する日本最古の私鉄である南海電気鉄道は、120有余年の間、和歌山と大阪の足を担ってきました。

今回は、乗車券や時刻表、観光案内などの紙資料からその歴史をたどるとともに、ヘッドマークや行先板などの鉄道部品から資料収集の世界を垣間見ていただきます。

第206回

「古代日本の鏡」

―三角縁神獸鏡へのアプローチ―

◇月日/3月19日(土)

◇講師/藤原郁代(当館学芸員)

古墳時代の鏡は、もとは中国から日本

に渡ってきたものでした。そこに表された文様は、当時の中国で信じられていた神々の世界を表現しています。いろいろな鏡の文様を読み解いて、三角縁神獸鏡の理解を深めたいと思います。



三角縁神獸鏡
奈良県 富雄丸山古墳出土
径 21.7cm

お詫びと訂正
ニュースレター第8号にて掲載した内容に誤りがありました。お詫びして訂正させて頂きました。

誤 イスラエルにおける発掘調査(四) (ニル・レヘシユ遺跡③)
正 イスラエルにおける発掘調査(五) (ニル・レヘシユ遺跡④)

おしらせ

「関西文化の日」

入館無料

「関西文化の日」は関西(2府7県)圏域内の方々に広く美術作品や資料に接する機会を提供し、美術・学術愛好者の増大を図るとともに圏域外に向けても「文化が息づく関西」を広くかつ力強くアピールして圏域への集客を図ることを目的に催されます。

当館は本年もこの主旨に賛同し、左記の期間無料で常設展示および創立80周年記念特別展「よみがえるヤマトの王墓」を観覧頂けます。

また、同期間にあわせ11月21日(日)には開催中の特別展別品解説を行います。

◇期間/11月20日(土)〜23日(火・祝)

利用案内

開館時間 午前9時30分〜午後4時30分

(入館は午後4時まで)

休館日 毎週火曜(休日の場合は休日後の最も近い平日)

ただし毎月25日〜27日、4月17日〜19日、7月26日〜8月4日は開館

創立記念日(4月28日)

夏期(8月13日〜17日)

年末年始(12月27日〜1月4日)

入館料 大人400円、団体(20名以上)300円、小・中学生200円(※)

※学校単位の団体は無料。事前申込要

交通 電車/JR桜井線天理駅・近鉄天理線

天理駅下車 南東へ徒歩約30分

車/西名阪道天理ICから国道169号線を

南へ約3km 駐車場あり(無料)

その他 団体見学は事前にご連絡願います

世界の生活文化と考古美術の博物館

天理大学附属天理参考館

〒632-8540

奈良県天理市守日堂町250番地

Tel 0743-6318414

Fax 0743-6317721

URL <http://www.sankokan.jp>

携帯電話のサイトから情報をご覧いただけます



編集後記

ニュースレター第9号をお届けします。今号は今年度開催する当館創立80周年記念特別展「よみがえるヤマトの王墓」「シヤルジャ、砂漠と海の文明交流」を中心に掲載しました。講演会やダンス公演などのイベントを計画しています。どうぞご期待下さい。(片山)